

授業科目名	日本語教授法	単位数	2単位
担当教員名	奥元さえ美	担当形態	単独
実務内容 (実務家教員の場合)	本科目は日本語教育現場に則した指導内容であり、日本語教育現場、日本語教師養成経験のある教員が実践的な視点から様々な教授法を用いて指導する。		
「学位授与の方針」との関係			
DP2. 共生社会創造のために、教育、福祉、環境、国際関係、スポーツ身体表現、等の専門的知見を得ることができる（専門知） DP4. 個人や社会にとって必要な課題の解決のため、自律的な課題探究能力を身につけ実践することができる（実践力）			
授業のテーマ及び到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・日本語教育におけるさまざまな教授法とその実践的知識を修得する。 ・学習者が置かれている環境を理解し、その環境に合った授業が組み立てられることを目標とし、初級教材の分析、コースデザイン、授業展開を理解することができる。 			
授業の概要			
日本語教育における教授法の基本的知識、授業に必要な技能を学修し、初級日本語の授業が組み立てられるようになる。指導教員の提示する教授法を自分自身に落とし込み、自分なりの授業が組み立てられる知識、技術、方法を学修、体得する。 ※この科目は単独受講できない。「日本語教育演習Ⅰ」「日本語教育演習Ⅱ」で教案を作成し実際の授業を組み立てる前段階の科目である。			
授業計画			
第1回：第1章「日本語教師の役割」 第2回：第2章「日本語を教えるということ①」コースデザイン・ニーズ・レディネス調査・条件分析 第3回：第2章「日本語を教えるということ②」教授法の選定・シラバス 第4回：第2章「日本語を教えるということ③」カリキュラム・教材の選定 第5回：第3章「初級の教え方①」文字/読解 第6回：第3章「初級の教え方②」発音/会話 第7回：第9章「いろいろな外国語教授法1～2」外国語教授法の変遷・近世の外国語教授法20世紀の外国語教授法・直接法 第8回：第9章「いろいろな外国語教授法3～4」オーディオリンガルアプローチ・コミュニカティブアプローチ 第9回：第9章「いろいろな外国語教授法5～7」TPR・サイレントウェイ・CLL 第10回：第9章「いろいろな外国語教授法8～10」ナチュラルアプローチ・コミュニカティブアプローチ 第11回：第9章「いろいろな外国語教授法11～14」サジェストベディア・内容重視の教授法・タスク重視の言語教授法 第12回：第6章「中上級の教え方」読解教育 第13回：第6章「中上級の教え方」新聞を使った読解教育・レアリア 第14回：第8章「評価と試験3～6」試験の目的別分類・試験の種類・試験の効果 第15回：第8章「評価と試験1～2」評価の種類・評価の対象 科目修得試験			
スクーリングでの学修			
1日目・・教員の模擬授業を受講して初級指導の基本を学び、実際に教案を作成する 2日目・・コースデザインや日本語教育の現場について学ぶ。1日目に作成した教案で模擬授業を行い、教員のフィードバックを受ける			
テキスト			
・高見澤孟「増補改訂版 新・はじめての日本語教育2」アスク出版 978-4-87217-994-1 ・スリーエーネットワーク編著「みんなの日本語 初級Ⅰ、Ⅱ 第2版 本冊」スリーエーネットワーク978-4-88319-603-6			
参考書・参考資料等			
・高見澤孟著、監修、ハント蔭山裕子、池田悠子、伊藤博文、宇佐美まゆみ（2016）増補改定版「新・はじめての日本語教育Ⅰ」アスク出版、978-4-87217-993-4 ※「みんなの日本語 初級Ⅰ、Ⅱ 第2版 本冊」の巻末に副教材のリストがある。適宜参考にすること。			
学生に対する評価			
スクーリング評価（25％）、レポート評価（25％）、科目修得試験（50％）			